

京都検定講演会講師による公開テーマに関連する‘よもやま話’。しっかり学習を深め、京都検定合格を目指しましょう。

第19回 京都検定 3級公開テーマ

「京を見守る銅像となった歴史人物」

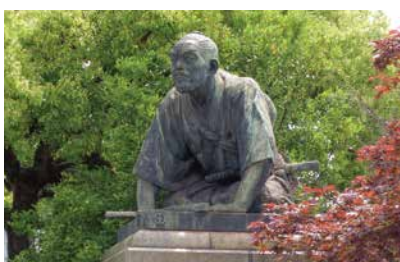
【講師】
塩原 直美
京都観光
おもてなし大使



●京の地に建つ「銅像」に胸キュン

旅先で「銅像」に出会うことは多く、大抵がその地出身の英雄や功労者だ。だが京は少し違う。私と同じ「よそ者」の三条京阪の「彦ちゃん」は衝撃だった…。京で際立つ「よそ者」の銅像。今回はそうした人物に思いを馳せ、京に来た目的、時代背景、銅像が建立された場所、その視線などを紐解き、3級テーマを学んでみよう。

衝撃を受けた三条京阪の「高山彦九郎」は群馬出身。土下座ではなく、御所の天皇へ拝礼の姿だ。四条大橋東の「出雲の阿国」の視線の先には南座がある。円山公園の「龍馬と慎太郎」は二人で何処か遠くを見ている。その先の世界を見ていたのであろう。本法寺の「長谷川等伯」は筆を持つ旅姿。筆一本で京へ来た孤高の絵師が見上げる空は、故郷の七尾に続いていよう。



高山彦九郎像



出雲の阿国像



坂本龍馬・中岡慎太郎像

金戒光明寺の会津藩墓地には「松平容保」が。懸命に戦い、会津に帰れずに京で眠る藩士たちに、そっと寄り添っている。琵琶湖疏水の側に建つ「田邊朔郎」と「北垣国道」。田邊は東京、北垣は兵庫出身だ。こうした多くの「よそ者」が都へ来て、成し遂げたこと、高い志（こころざし）、真摯で熱いハートに胸キュンすることが勉強になる。全員ではないものの大半は出身地にも像があるが、京に建つ意は大きい。

一方で京都出身の人物の銅像といえば、嵐山公園の「角倉了以」「村岡局」、清明神社の「安倍晴明」、等持院の「牧野省三」、善峯寺の「桂昌院」ら。面々と建立の地に合点がいく。あなたが銅像にしたいと思う人物は？ 相応しい建立地は？ そんな“妄想”こそ、実は京都検定に生きてくる。普段とは歩くルートを変え、銅像の前で、しばし胸キュン、それが3級合格への近道“虎の巻”だったりする。

京都検定公式YouTubeでも公開テーマを学習しよう！



昨年度から実施している京都検定YouTubeチャンネル。5月から京都検定の「公開テーマ」について学ぶ新シリーズがスタートしました。本誌だけでなく、YouTubeもあわせてご覧ください。

▶▶▶ [京都検定 YouTube](#)



※京都検定では『公開テーマ』に関する問題が各級10問出題されます。

第19回(12月12日施行) 3級「京を見守る銅像となった歴史人物」 2級「京の通称寺」 1級「京の名木」

※「京都・観光文化検定試験」「京都検定」及びそのロゴマークは京都商工会議所の商標です。無断で使用することはできません。